

IV. 令和3年度前期 南紀熊野サテライト開講授業

1. 大学院授業科目

授業科目名 (英文表記)	マクロ経済学 (Macroeconomics)		
単位数	1	授業形態	講義・演習
担当教員	荒井 信幸		
開講	南紀熊野サテライト	区分	大学院
実施日・時間	第1回 5月8日(土) 13:00~17:00		
	第2回 5月29日(土) 13:00~17:00		
	第3回 6月26日(土) 13:00~17:00		
【授業のねらい・概要】			
<p>主として日米の政府機関で作られている最新のマクロ経済統計や報告書を、読み進めることで、経済動向への理解を深めます。自ら経済データを収集、処理してグラフを作成することで、新たな発見をする面白さを知って頂きます。日米のマクロ統計を中心に、国際比較や気づきを掘り下げ、分析レポートを作成します。</p>			
【授業計画】 授業は以下の構成に沿って進め、必要に応じて内容を追加します。			
第1回『主要なマクロ経済報告書・統計の読み方とデータ取得』			
<p>日米の政府によるマクロ経済指標と作成主体について紹介します。その後、日米政府による最新の年次マクロ経済報告書を読み解きます。また月次のマクロ経済報告書についても学びます。最後に政府や中央銀行のデータベースから最新のマクロ経済データを取得する方法を学びます。この授業の復習として、受講者は自分でデータをダウンロードし、整理する作業を行います。</p>			
第2回『日米のマクロ経済データの加工と分析』			
<p>日米の様々なマクロ経済データを取得し、様々な加工をして、データから経済現象が浮かび上がるようになるよう演習します。また、より見やすく理解しやすいグラフの作成方法についても学びます。日米のマクロ経済データを比較検討することで、新たな気づきと、更なる探求をしていきます。この授業のあと、受講者は、第3回目の発表に向けてレポート作成を行い、第3回目の前までに提出します。</p>			
第3回『マクロ経済指標の注目点とレポート報告』			
<p>授業の前半では、最新のマクロ経済指標を使って、注目点は何かについて学び、議論していきます。授業の後半では、受講者が作成提出したレポートについてプレゼンテーションを行い、クラスでディスカッションします。</p>			
【到達目標】			
<p>マクロ経済統計や報告書を通じて、データの背景にある理論や経済現象を理解し、自分で最新のデータを収集、分析できる。分析結果について、報告書を作成することができる。</p>			
【教科書】			
<p>特に定めません。適宜、参照すべき資料を指示します。</p>			
【参考書】			
<p>例えば以下のような資料について、必要な部分を指示します。 (米国) CEA, Economic Report of the President, Economic Indicators, St. Louis FED, FRED Economic Data. (日本) 内閣府「年次経済財政報告」、「月例経済報告」</p>			
【成績評価方法】			
<p>授業への参加態度、期末レポートにより総合的に評価します。</p>			
【授業時間外学修についての指示】			
<p>シラバスで示されたテーマについて、関連ウェブサイトを開き、必要な資料やデータをダウンロードし、最新の経済データに触れてきて下さい。講義をもとに、自分で経済データを入力し、グラフや表を作成して行って下さい。</p>			
【履修上の注意・メッセージ】			
<p>授業はマクロ経済データについての解説や、データの活用についてのエクセルを使った演習を中心に行いますので、パソコンをご持参下さい。主体的に取り組むことを前提としていますので、積極的な参加を期待します。第3回目では受講生に経済データを使ったレポートを提出して頂き、プレゼンテーションを行って頂き、参加者で議論を行います。</p>			
<p>※基本的には対面での実施を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインによる遠隔授業を行う場合又は授業を中止する場合があります。オンラインによる授業を行う場合に必要なパソコン、ネット環境は、各自で準備してください。</p>			